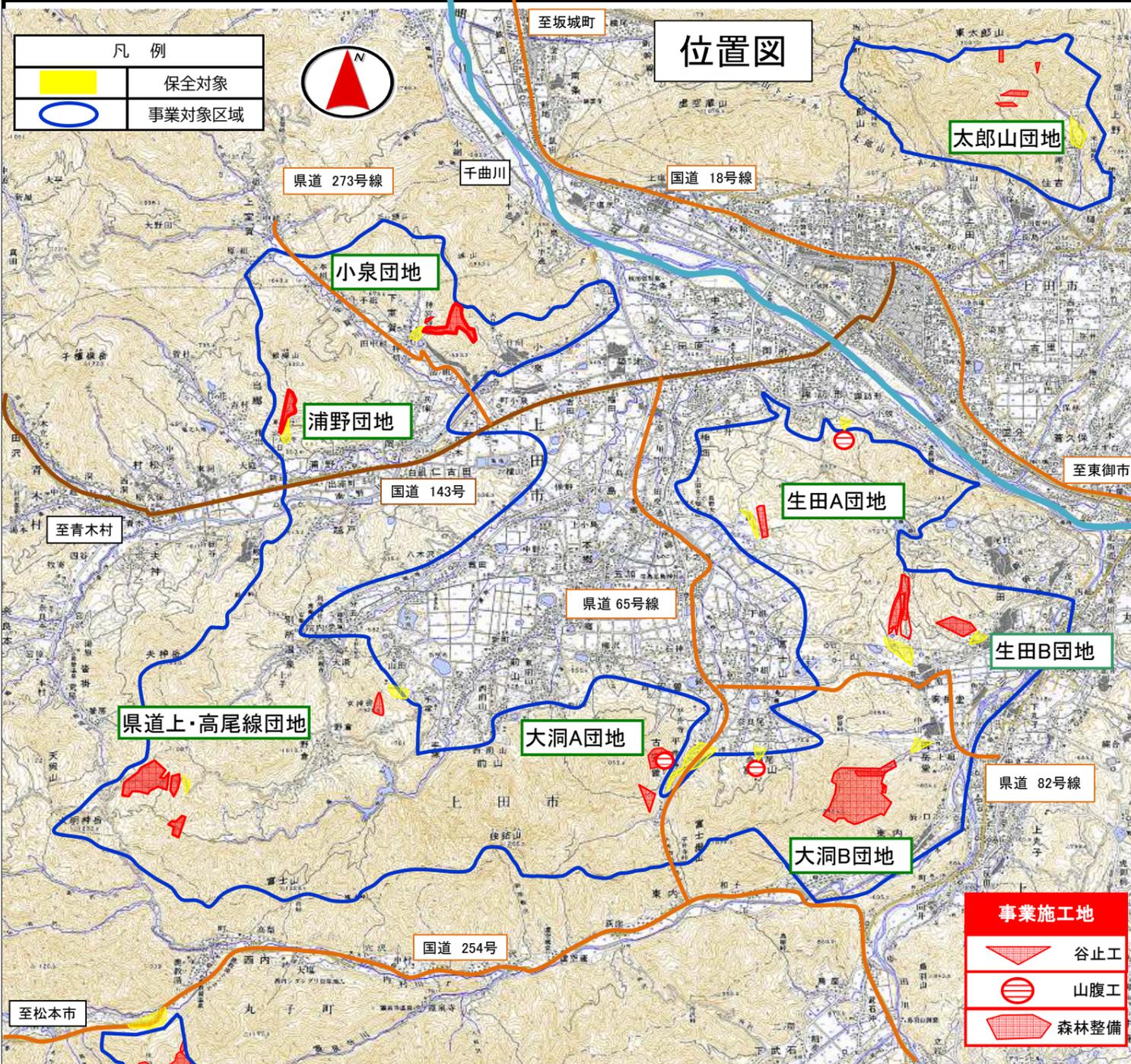


番号	4	事業名	治山	市町村名	上田市	路河川名	—	箇所名(ふりがな)	平井寺(ひらいじ)																																		
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	○平成19年に林野火災が発生し、山林約14haを焼失させた。また同時期にマツクイムシの被害が拡大し、アカマツの枯損被害が深刻化した。これらの影響により山腹斜面が裸地化し、山腹崩壊による土砂流出や落石が発生する危険性が高まったため、地元からの要望を受け、保安林としての機能回復を図るため治山事業を導入した。					②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)		評価																																		
	○森林整備の実施による山火事跡地やマツクイムシ被害地の健全な森林化や、山腹工事や溪間工事による崩壊土砂の流出抑止が図られ、自然環境の改善に繋がった。 ○落石予防対策の工法に、立木を伐採せずに施工可能な「ロープネット工」を採用し、工事に伴う立木伐採を極力減らすことにより、自然環境の保全に努めた。						A																																				
事業目的	○平成19年に発生した林野火災やマツクイムシより枯死した森林の機能を回復させるとともに、土砂流出や落石を予防し下流保全対象の安全の確保、安心できる暮らしの実現を目的とする。					③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)		評価																																		
<table border="1"> <tr> <th>当初工期</th> <td>H19~H22</td> <th>費用対効果(当初時)</th> <td>7.00</td> <th>事業費(千円)</th> <th colspan="4">財源内訳(千円)</th> </tr> <tr> <th>最終工期</th> <td>H19~H28</td> <th>費用対効果(評価時)</th> <td>4.91</td> <th>上段:当初/下段:最終</th> <th>国庫</th> <th>その他</th> <th>県債</th> <th>一般財源</th> </tr> <tr> <th>当初計画内容(主な工種)</th> <td colspan="3">改植8ha、本数調整伐18ha、山腹工(土留工2個、落石防護柵120m、落石固定工4000m2)</td> <td>169,300</td> <td>84,650</td> <td></td> <td>76,000</td> <td>8,650</td> </tr> <tr> <th>最終事業実績(主な工種)</th> <td colspan="3">改植10.66ha、本数調整伐13.16ha、下刈・獣害防除他35.84ha、谷止工1個、山腹工(土留工7個、補強土工231m、簡易法枠工486m2、法枠工366m2、落石防護柵72m、落石固定工6387m2)</td> <td>373,020</td> <td>186,510</td> <td></td> <td>167,000</td> <td>19,510</td> </tr> </table>					当初工期		H19~H22	費用対効果(当初時)	7.00	事業費(千円)	財源内訳(千円)				最終工期	H19~H28	費用対効果(評価時)	4.91	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源	当初計画内容(主な工種)	改植8ha、本数調整伐18ha、山腹工(土留工2個、落石防護柵120m、落石固定工4000m2)			169,300	84,650		76,000	8,650	最終事業実績(主な工種)	改植10.66ha、本数調整伐13.16ha、下刈・獣害防除他35.84ha、谷止工1個、山腹工(土留工7個、補強土工231m、簡易法枠工486m2、法枠工366m2、落石防護柵72m、落石固定工6387m2)			373,020	186,510		167,000	19,510	○当該地域で施工した施設は、長野県が適切に管理を行っている。	
当初工期	H19~H22	費用対効果(当初時)	7.00	事業費(千円)	財源内訳(千円)																																						
最終工期	H19~H28	費用対効果(評価時)	4.91	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源																																			
当初計画内容(主な工種)	改植8ha、本数調整伐18ha、山腹工(土留工2個、落石防護柵120m、落石固定工4000m2)			169,300	84,650		76,000	8,650																																			
最終事業実績(主な工種)	改植10.66ha、本数調整伐13.16ha、下刈・獣害防除他35.84ha、谷止工1個、山腹工(土留工7個、補強土工231m、簡易法枠工486m2、法枠工366m2、落石防護柵72m、落石固定工6387m2)			373,020	186,510		167,000	19,510																																			
事業概要	<table border="1"> <tr> <th>当初計画内容(主な工種)</th> <td colspan="3">改植8ha、本数調整伐18ha、山腹工(土留工2個、落石防護柵120m、落石固定工4000m2)</td> <td>169,300</td> <td>84,650</td> <td></td> <td>76,000</td> <td>8,650</td> </tr> <tr> <th>最終事業実績(主な工種)</th> <td colspan="3">改植10.66ha、本数調整伐13.16ha、下刈・獣害防除他35.84ha、谷止工1個、山腹工(土留工7個、補強土工231m、簡易法枠工486m2、法枠工366m2、落石防護柵72m、落石固定工6387m2)</td> <td>373,020</td> <td>186,510</td> <td></td> <td>167,000</td> <td>19,510</td> </tr> </table>					当初計画内容(主な工種)	改植8ha、本数調整伐18ha、山腹工(土留工2個、落石防護柵120m、落石固定工4000m2)			169,300	84,650		76,000	8,650	最終事業実績(主な工種)	改植10.66ha、本数調整伐13.16ha、下刈・獣害防除他35.84ha、谷止工1個、山腹工(土留工7個、補強土工231m、簡易法枠工486m2、法枠工366m2、落石防護柵72m、落石固定工6387m2)			373,020	186,510		167,000	19,510	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)		評価																	
	当初計画内容(主な工種)	改植8ha、本数調整伐18ha、山腹工(土留工2個、落石防護柵120m、落石固定工4000m2)			169,300	84,650		76,000	8,650																																		
最終事業実績(主な工種)	改植10.66ha、本数調整伐13.16ha、下刈・獣害防除他35.84ha、谷止工1個、山腹工(土留工7個、補強土工231m、簡易法枠工486m2、法枠工366m2、落石防護柵72m、落石固定工6387m2)			373,020	186,510		167,000	19,510																																			
事業期間の延長、短縮理由と分析	○当初事業計画ではH22年度までの実施を予定していたが、 ①平成22年度、平成23年度に発生した山腹崩壊地2箇所の復旧対策の追加 ②H25年台風18号による土砂流出の復旧対策(谷止工1基)の追加等により、事業期間を平成28年度まで延長して対応した。					④地域住民等の評価	○(奈良尾区長:大洞B団地)しっかりと工事をやって頂いた。その後の崩落もなく、十分に効果を感じている。 ○(初太郎区長:生田A団地)治山工事箇所はひびや崩れも見当たらず問題ない。周辺住民も特に話はない。効果が出ているということではないかと思う。 ○(平井寺区長:大洞A団地)森林整備や山腹工に対する特段の意見は無い。令和元年度台風で一部溪流において土砂が流下(被害なし)したため、今後も対策を続けてほしい。		A																																		
	○当初事業計画ではH22年度までの実施を予定していたが、 ①平成22年度、平成23年度に発生した山腹崩壊地2箇所の復旧対策の追加 ②H25年台風18号による土砂流出の復旧対策(谷止工1基)の追加 ③詳細調査結果に基づく落石固定工の増工等により、事業費が増加した。						改善措置の必要性		○定期的に点検しており、異常は見受けられない。 ○当事者としての改善措置の必要性はない。																																		
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	○平成22年度、平成23年度に発生した山腹崩壊地2箇所の復旧対策の追加 ②H25年台風18号による土砂流出の復旧対策(谷止工1基)の追加 ③詳細調査結果に基づく落石固定工の増工等により、事業費が増加した。					改善措置の必要性		○定期的に点検しており、異常は見受けられない。 ○当事者としての改善措置の必要性はない。																																			
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成)					評価		B																																			
	直接的効果(定量的・定性的)	○谷止工1基の施工により不安定土砂1,357m ³ の流出を抑制し、令和元年台風19号の豪雨(252.5mm/24h)においても下流県道への土砂流出を抑制した。 ○3地区の山腹工の施工により、1.23haの崩壊地を復旧し、保安林機能の回復を図った。 ○8箇所、59.66haの森林整備を実施したことにより、無立木地の森林化や過密森林の適正密度への誘導などが図られ、森林の持つ公益的機能が高まった。 ○上記の実績により、県道上田丸子線及び真田新田線1700m、市道270m、人家48戸、一級河川尾根側・浦野川、ため池一箇所等の保全を図った。 なお、事業実施後においては事業実施区域内での土砂災害は発生していない。					今後の取り組み及び同種事業への活用と課題		○植栽木が健全に成長し、森林の持つ公益的機能が発揮できるよう、適切に保育を実施する。 ○事業で設置した構造物の機能が常に発揮されるよう、定期的な調査点検を行う。																																		
間接的効果(定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	○県道上田丸子線、真田新田線等の基幹道路の保全により、地域振興に寄与している。 ○マツクイムシ被害により枯損した森林や、山火事により焼失した森林が健全な森林へ復旧されたことにより、多様な動植物の生息環境の回復が図られた。					林務部公共事業評価委員会の意見	林野火災跡地や崩壊地の復旧や森林整備等により山地災害の未然防止、防災機能の高い森林への誘導が図られており、総合評価Aが妥当と判断する。		総合評価 A																																		
						長野県公共事業評価委員会の意見	林務部公共事業評価委員会の意見を妥当と判断する。		県の評価案 妥当 評価監視委員会意見 妥当 評価の決定 A																																		

番号	4	事業名	治山	市町村名	上田市	路河川名	-	箇所名(ふりがな)	平井寺(ひらいじ)
----	---	-----	----	------	-----	------	---	-----------	-----------



【当初計画】
 平成19年に林野火災の発生及びマツクイムシによるアカマツの枯損が顕在化。これにより、森林機能が低下し山腹崩壊や落石の発生が危惧されたため、本事業により山腹崩壊の予防及び荒廃森林の整備を実施した。

森林整備(小泉団地)

マツクイムシ被害木を伐採後、コナラ等の植栽による保安林機能の回復

マツクイムシ被害地の森林復旧状況 (R4年5月:小泉団地)

落石予防工(ロープ伏工) (大洞A団地)

落石の発生源対策を実施

落石防護柵工(大洞A団地)

落石を受け止める防護柵工の設置

【変更計画】

- 平成22年度、23年度に発生した山腹崩壊地2箇所の復旧対策を追加実施した。
- 平成25年台風18号豪雨災害により溪流内の不安定土砂が流出し、降雨で再度流出する恐れがあることから谷止工1基を追加実施した。

山腹工(生田A団地)

山腹崩壊により市道へ土砂が流出し一時人家2戸が孤立した(H23年度)

山腹工の施工による崩壊地の復旧

谷止工(大洞A団地)

土砂流出により閉塞しかけた県道の橋(H25年度)

上流部に谷止工を新設し、不安定土砂流出を抑止

林野火災発生地の状況(大洞A団地)

(H19年:火災により焼失・枯死した森林)

(R4年5月:森林復旧状況)